

1月21日(木曜日)「権利の軽蔑」

【新改訳 2017】

創世記 25・27-34

「……こうしてエサウは長子の権利を軽蔑したのである。」

(34 節)

イサクは、妻リベカとの間にふたごを与えられ、兄エサウ、弟をヤコブと名づけました。各々の名前は、生まれた時の様子からつけられました。その時、イサクは 60 歳。エサウはちなみに猟師、野の人となり、ヤコブは穏やかな人で天幕に住み、牧羊を仕事にしました。

ある日、兄エサウは狩猟から疲労と空腹で帰宅した時、ヤコブがおいしそうなパンとレンズ豆の煮物を前にしていたのを見て、自分に与えられている長子の権利と引き換えに、その食べ物を手に入れ満足しました。当時、その権利には生涯にかかわる祝福が伴っていました。財産だけではなくアブラハムへの契約の祝福のすべてがかかわっていました。エサウはそれを一時の満足のために手離し、ヤコブは執拗な仕方で行いました。私たちは、神の祝福についてエサウ型でしょうか、

それともヤコブ型でしょうか。よく考えてみましょう。

～祈り～

主よ。神の子どもとなる特権と祝福をお与えくださり、ありがとうございます。どうか、これを世の何ものとも引き換えるような間違いを犯さないようにお守りください。

【学びのために】

実際には、信仰にもいろいろなタイプがあります。ここでは、二つの対照的なタイプを見ます。ヘブル 12・16、17 参照。